

皮下埋没型中心静脈ポート（CVポート）について

がん化学療法では、点滴の回数を重ねると末梢血管の確保が難しくなります。また刺激の強い抗がん剤では、静脈炎による疼痛のために継続できない場合があります。抗がん剤が血管外に漏れた場合には、難治性の皮膚潰瘍を生じることもあります。

より安全・確実に抗がん剤治療を行う方法として、CVポートを利用される患者さんが近年増えています。

これから CV ポートについてご説明いたします。

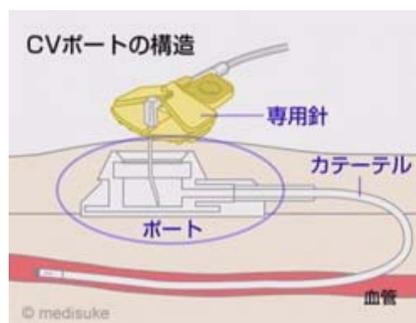
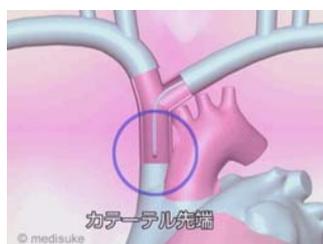
☆CVポートとは

CVポートは血管内に薬を長時間注入する場合に用います。抗がん剤治療を実施する以外に高カロリー輸液の投与などにも用います。

CVポートは直径2~3cmの小型円盤状のタンクとカテーテルと呼ばれるチューブから出来ています。ポートの中心にはセプタムと呼ばれる圧縮されたシリコンゴムがあり、そこにヒューバー針と呼ばれる専用の針を刺し、薬を流すことによりタンクを通過して接続されているカテーテルへと薬が流れる仕組みになっています。

CVポートは前胸部、上腕部などに埋め込まれます。

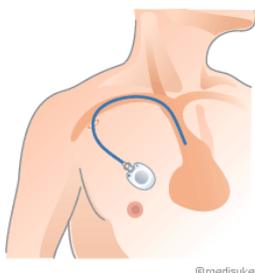
CVポートと接続されているカテーテル先端を上大静脈に留置し、ここから薬が体に注入されます。



☆CVポートの埋め込みについて

1. CV ポートを体内に埋め込むために小さな手術を必要とします。通常、局所麻酔で行います。
2. 当院では CV ポートは左右どちらかの前胸部か上腕部に埋め込みます。
3. 手術時間はおよそ 1 時間程度です。

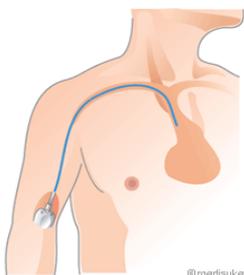
ポートの埋め込み位置と挿入血管について（ポート及びカテーテルは実際には体内にあります）



鎖骨の下にある静脈からカテーテルを挿入し、前胸部にポートを埋め込む場合



頸部の静脈からカテーテルを挿入して前胸部にポートを埋め込む場合



上腕にポートを埋め込む場合

*CV ポートは通常留置した数日後から使用します。

☆利点

1. CV ポートでは大きなセブタム部分に簡単に針を刺すことができるので、1 回で確実に点滴することが出来ます。一方末梢静脈に針を留置し、腕の血管から抗がん剤の投与を行う場合、血管が細い、もしくは血管がもろい場合、針を何度も刺しなおす場合があるので苦痛を伴うことがあります。

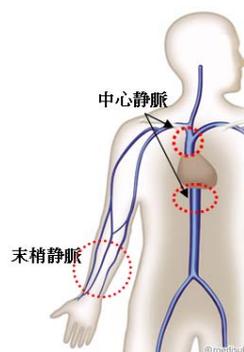
2. 患者さんの体格にもよりますが、外見上、埋め込んだ部分はそれほど目立たず、生活にほとんど支障はありません。

3. 末梢静脈から抗がん剤投与を行う場合、腕を動かすことにより薬剤が漏れる危険性があるので腕の動きが多少制限されます。しかし、CV ポートでは抗がん剤が血管外に漏出する危険性が少ないので、安静を保つ必要がありません。また CV ポートはカテーテルの先端は太い血管に留置されているので、薬剤を投与するとき刺激の強い薬剤を投与しても静脈炎が起きる可能性が少なくなります。

4. CV ポートから抗がん剤を投与することで、末梢静脈が傷みませんので、後々採血に難渋することが少なくなります。また CV ポートからも、採血をすることもできます。

5. 長時間かけて薬剤を投与する場合は、入院が必要なこともありますが、CV ポートであれば確実に点滴が入りますので、自宅で治療を行うことが可能となります。CV ポートの抜針はやり方を習得できれば、患者さん自身で行うことも可能です。

6. きちんと管理をすれば、合併症を起こさず、年余にわたって使用することが出来ます。



☆欠点

1. 使用するには小さな外科的手術が必要です。

2. 合併症が起こる可能性があります。

当院で化学療法を目的とした CV ポート挿入例 153 例の合併症のデータを示します。

(2008 年～2010 年の 3 年間、平均年齢 64 歳：32～86 歳、平均観察期間 328

日間)

a. 留置成功例 151 例/153 例 (98.7%)

b. 留置時の合併症

①気胸 2 例(1.3%)、②動脈穿刺 2 例(1.3%)

c. 留置後の合併症

①感染 8 例(5.2%)、②閉塞 1 例(0.7%)、③カテーテル断裂 1 例(0.7%)、④その他 7 例(4.6%) でした。

これらのデータをもとにして、挿入時の合併症を減らすために、穿刺法で行う場合にはエコーを用いて静脈の走行を確認したり、直視下に血管を露出してカテーテルを挿入するカットダウン法を行うようにしています。また留置後の合併症を減らすために、CV ポートを扱う手技を病院全体で統一し、感染や閉塞が極力少なくなるように努めています。

☆CV ポートを用いた治療中に注意すべきサインについて

1. 時間が経ったにもかかわらず、点滴が落ちない。(カテーテル閉塞の可能性)
2. CV ポート周囲が赤く腫れたり、痛みがある。(感染の可能性)
3. 悪寒を伴う発熱がある。(感染の可能性)
4. CV ポート留置側の上肢や頸部がむくむ。(静脈内血栓症の可能性)

上記のようなときは、合併症をきたしている可能性があります。早めに病院へご連絡ください。

☆最後に

CV ポートにより、安全に抗がん剤投与ができます。CV ポートを留置したまま、日常生活や仕事、スポーツなどもできます。抗がん剤治療を受けられる際には、一度主治医にご相談してみてください。